

第1回 回診後勉強会

癒着胎盤

分類とリスク評価～超音波所見を中心に～

聖マリアンナ医科大学 産婦人科
高橋 由妃

癒着胎盤とは

- * 子宮腔内の脱落膜の欠損部位から絨毛が子宮筋層に直接侵入し、分娩後自然脱落することできない状態。
- * 無理な胎盤剥離や胎盤部分剥離が起これば大出血からショック・DICを引き起こし、母体予後を悪化させる
- * 発生頻度：1例/2500例
- * 多くは前置胎盤・子宮手術既往のある症例に発生
- * 既往・合併症より強く疑う症例であっても、術前に確定診断を下すことは困難

癒着胎盤 危険因子

- * 既往帝王切開の前置胎盤

既往帝王切開1回・・・24%

3回以上の既往帝王切開・・・67% という報告あり

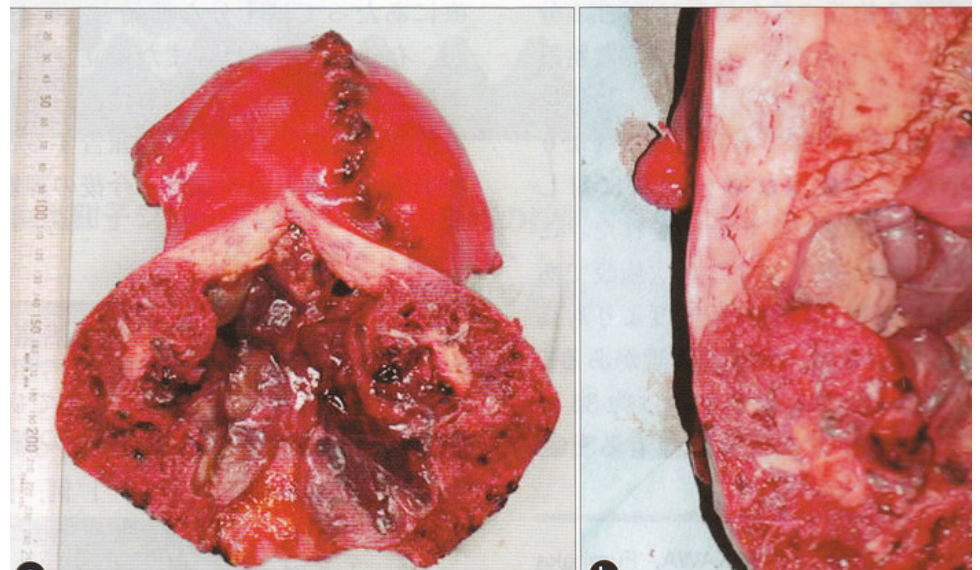
- * 子宮内膜搔爬、子宮筋腫摘出術、既往癒着胎盤など・・・

※近年の帝切率上昇により、癒着胎盤発生頻度は上昇

※1回でも帝王切開の既往がある場合は癒着胎盤を想定した対応をすべき

病理学的分類

- * 楔入胎盤 (placenta accreta)
絨毛が子宮筋層表面と癒着する
が筋層内には侵入しないもの
- * 嵌入胎盤 (placenta increta)
絨毛が子宮筋層内に深く侵入する
もの
- * 穿通胎盤 (placenta percreta)
絨毛が子宮筋層を貫通し子宮漿
膜面に達するもの



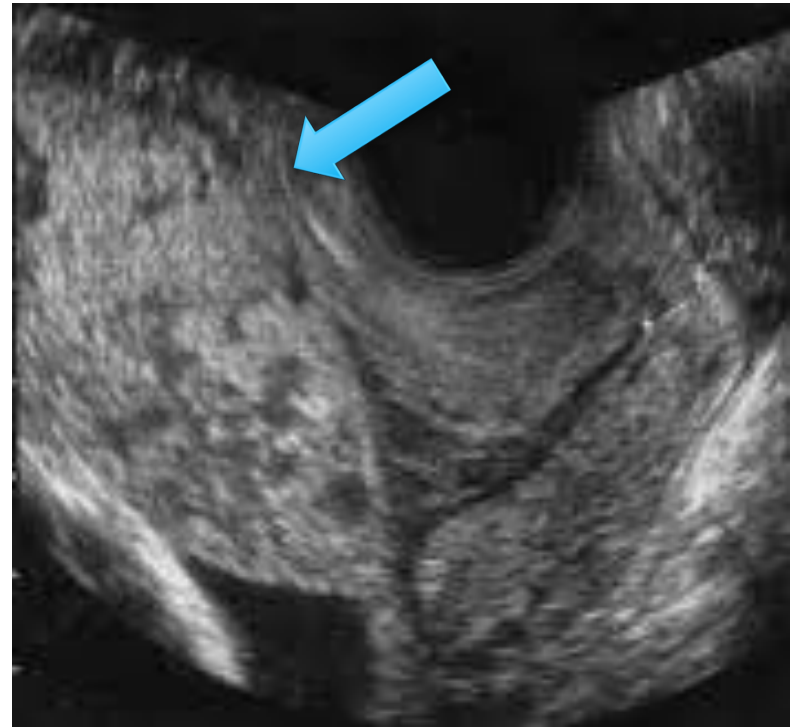
画像評価—超音波所見①

* 1. Loss of retro-placental clear space (胎盤後壁の低エコー帯の消失)

胎盤と子宮壁との間の低輝度な帯状のエコー (clear space: 組織学的には床脱
落膜に相当) が消失

→ placenta accreta を示す所見

◎ 正常妊娠でも散見されるが、癒着胎盤
スクリーニングとして有用



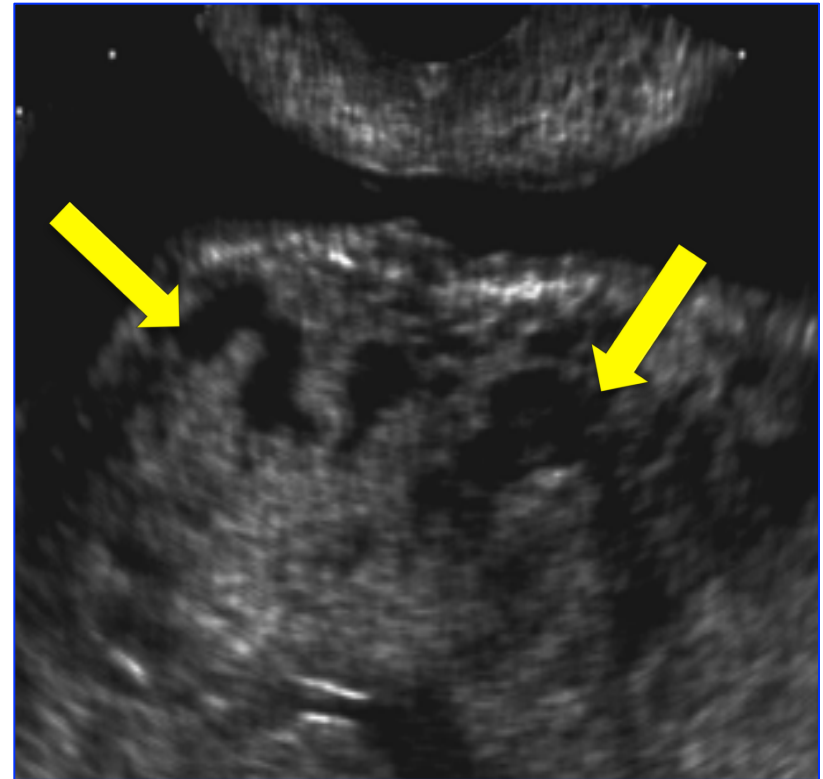
画像評価—超音波所見②

* 2. Placenta lacuna * (胎盤中の血液間隙)

※Lacuna:空隙、小穴の意味

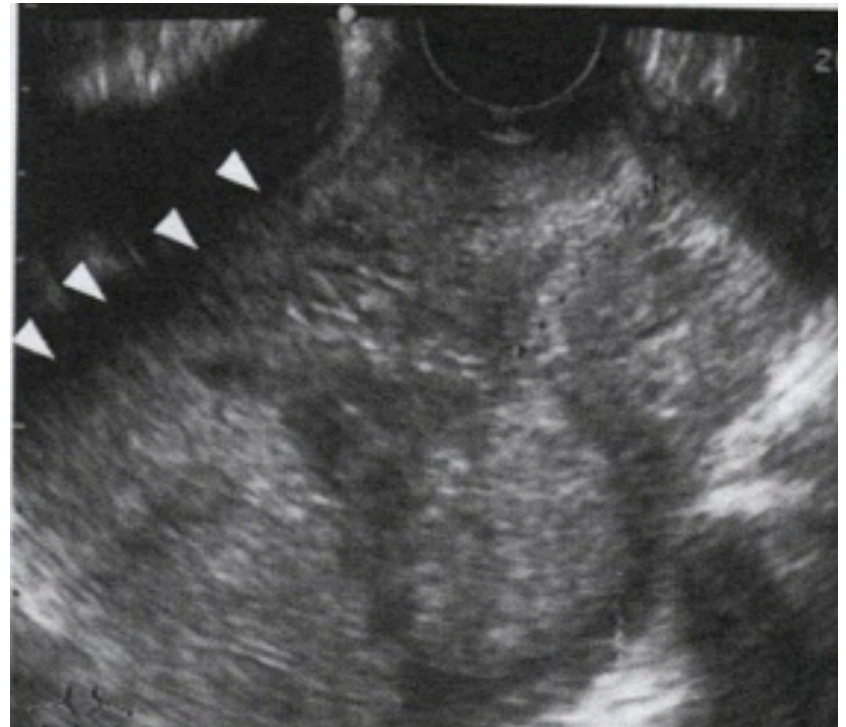
- * 1992年 最も有用な癒着胎盤の超音波所見として初めて報告
- * きれいな円形であることは少なく、多くは不整形
- * Lacunaが多いほど癒着胎盤の診断精度は上昇
- * 4～6個の不整形・大きめのlacuna+

⇒Sensitivity 100%,specificity 97%



画像評価—超音波所見③

- * 3. Bladder bulging
(膀胱壁の不整、胎盤の膀胱への盛り上がり)
⇒延長した血管が膀胱壁に張り出すため
- * 子宮壁を乗り越えて膀胱壁にまで癒着した胎盤(穿通胎盤)を疑う所見
⇒膀胱内腔まで胎盤が穿通していれば膀胱鏡で診断可能
- * 膀胱直下の子宮前壁が1mm以下であることも診断に有用

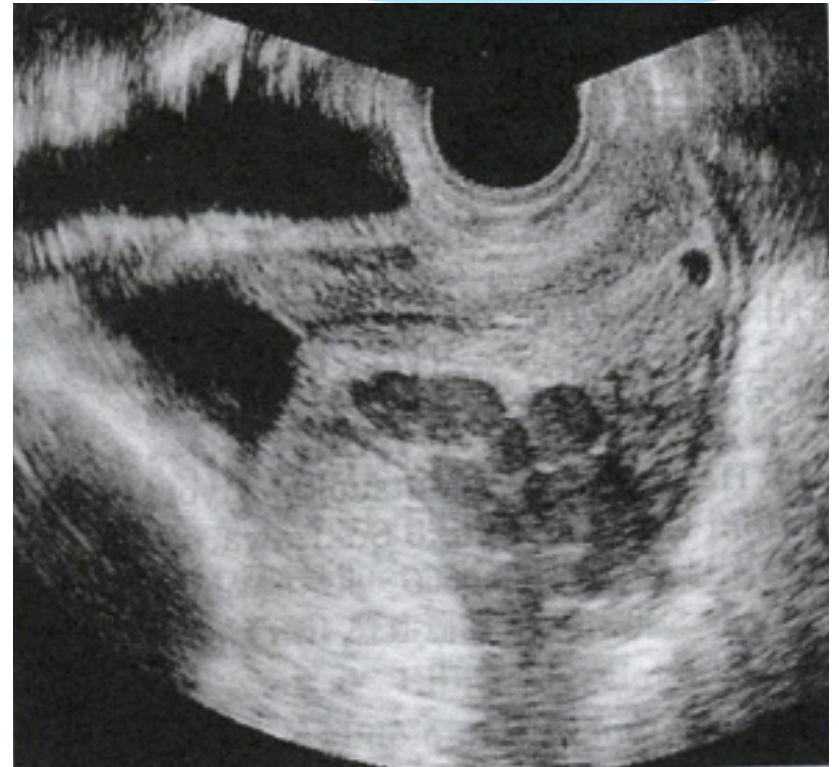


前置胎盤症例の 癒着診断に対する診断精度

| エコー所見 | 感度 | 特異度 | 陽性的中率 | 陰性的中率 |
|-------------------------------------|------|-------|-------|-------|
| Loss of retro-placental clear space | 60% | 96.2% | 37.5% | 98.5% |
| Placenta lacuna (≥ 1) | 60% | 85.6% | 13.0% | 98.3% |
| ($\geq 4-6$) | 100% | 97% | | |
| Bladder bulging | 20% | 100% | 100% | 100% |

紛らわしい超音波所見

- * **辺縁静脈洞の拡張、子宮頸部のsponge-like echo**
:子宮頸管筋層に描出される複数の小嚢胞状エコー
- * 主に前置胎盤で子宮筋層内を走行する血管の拡張像
- * 子宮下節の血流が豊富であり、術中大出血を予見する所見



MRI

* MRI

子宮全体を観察することができ、特に胎盤後壁付着症例の胎盤観察で有用

現時点で癒着胎盤を判定することはできず、超音波検査と併用して評価する必要あり

最前線： 生化学的手法（研究段階）

- * 母体血漿中cell-free fetal DNA (cff-DNA)
- * 母体血漿中cell-free placental mRNA (cfp-mRNA)
- * 母体血中にある胎児や胎盤由来のDNAやmRNAを測定し、癒着胎盤のために遺残した胎盤の状態評価や、癒着胎盤を出生以前に推定する分子マーカーとしての可能性が見いだされている

Take home message

- * 癒着胎盤では、術前に確定診断をすることは困難だが、超音波検査で強く疑われる症例を抽出することは可能である
- * 癒着胎盤の危険因子のある患者では分娩前に詳細な超音波検査を行う
- * “疑わしい”症例には万全の準備をして手術に臨むよう、心がけておくべき